

企画展 「空間へのおもいイサム・ノグチ」AKARI」とともに「影」

桃紅と墨と和紙との関係は、初めて筆を握った幼い日の書初めの一筆から始まります。その後、自分だけの表現を求めて渡った遠いアメリカの地でも、桃紅の傍らには常に墨と和紙がありました。

「私が求め、いざなわれるどのような表現に当たっても、幼い時から私が親しんだ水墨というだけでは不自由なものにならなかつたのはありがたいことだった。私は外国で制作して、かえって水墨が限らない表現のてだてを蔵していることを覚ったくらいである。」

〔桃紅 私というひとり〕2000年
日本に帰国し、桃紅の表現はさらに書のかたちをはなれたものへと移行し



図版掲載 『影』
1998年 墨、和紙、胡粉、銀泥

ていきます。しかし、桃紅と墨と和紙との関係は今もなお続いています。作品「影」は、帰国して40年後に描かれた作品です。白い和紙に、濃淡の異なる墨の面、また胡粉の面が、かたちの余韻を残すように少しずつずらして重ねられています。それはまるで、刻々と移りゆく光や影の様子を表すように、時の経過という目に見えないものを画面に封じ込めたかのようです。本展では、桃紅と同じく日本とアメリカの2つの文化を吸収し、自分のかたちへと昇華させたイサム・ノグチの作品「AKARI」を展示室に設置、やわらかな光の中で見る桃紅作品の新たな一面を紹介しています。

- 会 期…12月27日(日)まで
- 入館料…高校生以上300円
中学生以下無料
- 休館日…月曜日(休日を除く)、
および祝日の翌日
(土・日・休日を除く)
- 開館時間…午前9時～午後4時30分
- 照会先… 篠田桃紅美術空間
(☎23-7756)

ひとひと
女と男

ともに自分らしく生きよう vol. 64

「さんかくの木」

男女共同参画社会

このコーナーでは、葉に書かれた内容をさんかくサポーターが紹介していきます。

「男女共同参画社会を構築することは幸せにつながる大切なことなのに、なかなか進まないのはなぜだろうーまず自分の足元、家族の様子を見つめることではないか」

関市で男女共同参画の取り組みが始まってから13年がたち、なぜ進まないのだろうと疑問をもつのも当然だと思います。国は、2020年までにあらゆる分野の指導的地位における女性の占める割合を30%に引き上げる目標を設定していますが、各国より日本の取り組みの遅れが批判されています。

この取り組みに対し、まず自分の足元、家族、自治会を見つめることが大切です。関市には579もの自治会があり、自治会連合会もできています。その中で連合会はもちろん各自治会においても女性の自治会長はたった数人という状態です。自治会には福祉部長などの役職が5つほど設けてありますが、一番大切な幸せにつながる男女共同参画部長は設けていません。行政指導で設けてもらえるといいですね。

いずれにしても男でなければという古い慣習から抜け出して、自治会役員の女性比率を高めて関市が全国に先駆けてモデル地区となるよう、意識を変えていきたいものです。皆さん、サポーターが企画・運営しているさんかく出前講座、セミナー、フォーラムなどに積極的にご参加ください。

さんかくサポーター<J>



◀ わかくさプラザ「学習情報館2階」男女共同参画「コーナー」でご覧になれます。

<照会先> さんかくサポーター事務局 (企画政策課内) ☎23-6876